

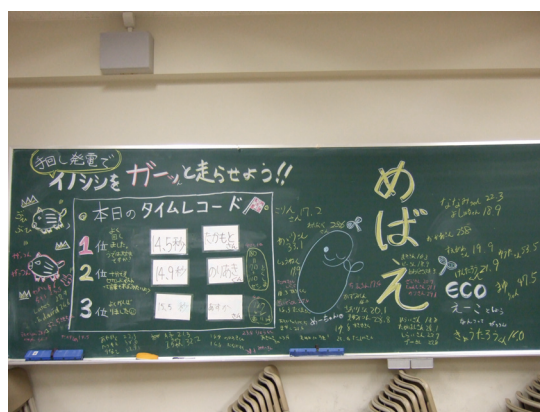
エコ学祭

代表者 井上 知佳 (教育学部学校教育教員養成課程 2 年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、香川大学祭で環境に配慮した取り組みを行うことで、香川大学の学生や大学祭に来てくださった地域の方々に環境意識を高めてもらうことを目的とします。今回私たちは有志を募り「めばえ」という団体を立ち上げ、大学祭で3つの取り組みを行いました。

- ①環境に良い、間伐材や建築資材の廃材を使った国産のわりばしの推奨。
- ②使用済みわりばしの回収→リサイクル業者への提供。
- ③エコ体験ブースの企画・運営。



2. 実施期間 (実施日)

平成 20 年 11 月 1 日 ~ 3 日 香川大学祭

3. 成果の内容及びその分析・評価等

私たちの行った活動を詳しく紹介していきたいと思います。

①今、日本では年間 250 億膳のわりばしが消費されています。一人あたり年間 200 膳。成長した木に例えると約 250 万本分。そしてその 97%が中国などからの輸入で、国内産は壊滅状態です。香川のわりばし産業もここ 10 年で 0 になりました。日本では間伐をされないまま放置されている森も



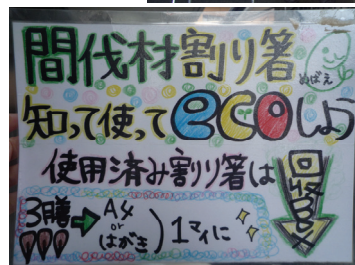
あり、根っこが張らず土砂崩れの原因になっています。一方で、中国をはじめ、世界の森は山は皆伐式でどんどん切られています。そのため大地がむき出しになり、砂漠化・黄砂・温暖化につながり、地球が傷ついていきます。

今回私たちが推奨したわりばしは徳島県産の間伐材わりばしと香川県産の建築資材の廃材を使ったわりばしです。間伐は森の整備に必要不可欠であり、間伐をしなければ土砂崩れなどを引き起こしてしまいます。そして間伐された木は資材としての利用が難しいためそのまま放置されるのが一般的です。建築資材の廃材も同様です。間伐材や建築資材を加工して利用することは、貴重な資源を有効活用するとともに、森への経済効果により、森や地場産業を元気にします。また国内産を使うことでこれらの効果は国へと浸透し、海外からの輸送の時にはかかるエネルギーやCO₂の削減につながります。

このような環境に良いわりばしをもっと多くの人に使ってもらいたいということで今回活動をしました。コストがかかってしまうというデメリットも含めながら私たちが推奨するわりばしの良さを知ってもらおうと思い、ポスターやメールを使って事前に広報や協力団体を募りました。20団体以上の模擬店団体が理解・協力してくださり、その模擬店団体を対象に説明会を開き、その団体の関係者・学祭当日に来てくれる一般の方々にわりばしの良さを知ってもらえるようにしました。学祭中に金銭の移動が出来ないということもあり、今回は無料配布にしましたが、次回からはわりばしにかかる費用の何割かを一般の方々や模擬店団体に負担してもらえるようにしていきたいと思えます。

当日は模擬店の前に絵入りのわりばし説明ポスターや回収ボックスを置いて視覚的に環境意識を持ってもらえるよう配慮しました。

②そして環境に良い割り箸を使用した後はきちんと回収してリサイクルします。各模擬店、学祭実行委員の設置するゴミ箱に回収ボックスも設置してもらいました。結果、3,777膳のわりばしを回収し、業者に提供することが出来ました。わりばし3膳でA4サイズ、または、はがきサイズの和紙になるので、1,260枚の和紙に再生されることとなります。国産のわりばしを使用し、国内でリサイクルし、また再生された紙を使い、リサイクルして…ということを繰り返すことで国内で資源のくるくるリサイクルが成り立ちます。資源を循環させ、経済を活性化させながら、限りある資源を有効に使っていきます。



ゴミ問題、地球温暖化、砂漠化…様々な環境問題が表面化してきています。それらを解決していくための一つの切り口としてこのわりばしの活動があります。そして、物質的なエコだけでなく、活動を通して多くの人々にとって環境について考えるきっかけになってくれたように思います。無理なく、身近なところから、みんなで、楽しんでエコをしていきたいと思えます。



③楽しくエコを体験してもらおう、環境について考えてもらおうと思い企画したのが展示ブースです。学祭中3日間433教室で【1】しこくろ(服の交換会)【2】手回し発電でイノシシレース【3】エコ工作【4】展示を行いました。



【1】しこくろ(服の交換会)は着れなくなった服をみんなで持ち寄り、交換し合うという活動です。自分の着ない服が誰かの欲しい服であれば交換し合うことでゴミを削減することができます。今回はめばえが集めた服を一斉に公開し、来てくださった方に好きなだけプレゼントするという方法をとりました。

【2】手回し発電でイノシシレースは発電を通して電気を作ることの大切さを体験してもらおうというものです。電気を作るには多くのエネルギーがかかり、そのことによってCO₂排出量も多くなり、環境に影響を及ぼしてしまいます。こういったことを肌で感じこれからの生活の中で少しでも省エネを心がけてもらえるようにという願いをもって企画しました。

順位	タイム	名前
1位	14.5秒	たかもと
2位	14.9秒	のあき
3位	15.5秒	あすか

手回し発電機とそれで走る猪をレンタルしました。ただ走らせるだけでは面白くないと思い、イノシシを数匹並べてレースをしてタイムを競うというゲーム的なコーナーにしました。この走る姿が可愛く好評なコーナーとなりました。家族みんなで競ったり、友達同士で競ったりといろいろでしたが、多くの人が真剣に発電をいただき、少し汗ばんだりした方もいて「スイッチひとつでつく電気も自分で発電するとなると思った以上に大変だとわかった」と参加者から感想をいただき、電気を作る大変さやエネルギーの大きさを感じてもらったことが十分できたように思います。



【3】エコ工作では牛乳パックで紙飛行機を作りました。牛乳パックから部品を切り離すところ

からやってもらったので、参加者の方々はハサミの扱いなど四苦八苦しながら製作に取り組んでくださいました。遊び道具を自分で作る、身近な材料で作るということを通してエコの考えを子どもたちに伝えることが出来たように思います。「小3の子どもが学校で教えてもらったのがきっかけで、エコに関心を持ち始めたのでちょうどいろいろわかって良かったです。」「とても楽しかった！」などエコな心をめばえさせつつ満足していただけたようです。次回は工作のバリエーションを増やしてより楽しんで満足してもらえる企画にしていきたいと思います。

【4】展示ではめばえの活動の紹介や今日から始められるエコの紹介、ゴミ分別チャレンジコーナーなどを設けました。「展示を見てエコのことがわかった」「今日から3Rをしていきたい」などブースに来てくださった方に何かを感じて帰ってもらうことができたようです。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

私たちめばえは楽しみながらエコをモットーに活動を進めてきました。そしてアンケートでは多くの方に「楽しめた」「これからも環境を考えながら行動したい」と答えていただきました。どの企画も小さなお子さんからお年を召した方まで幅広い年代の方に好評でした。すべてが0からのスタートし、手さぐりで活動をしてきましたが、このような評価を頂



けたのは本当に嬉しい

ことです。香川大学生や学祭に遊びに来てくださった方々の環境意識の向上やエコについて考えるきっかけになったのではないかと思います。また、めばえの団体も外部の企業や団体からも認知されるようになり、評価を頂けることもありました。「子どもが動けば大人が変わる、大人が変われば世界が変わる」

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

今回の活動は香川大学でも初めての試みということもあり、展示に遊びに来てくれた方々やかわってくれた人々から多くの高い評価を頂くことができました。私たちにとって評価をもらうことは自分自身への自信へとつながりました。有志を募ってめばえは立ち上がったので、初めて会う人と一緒に活動するという形になりました。学部・学年を超えて、いつもとは違った人と意見を交わらせ、試行錯誤したり刺激し合うという良い



機会になりました。その中で人の意見を聞くこと、自分の意見を相手に伝えることの難しさを改めて感じました。環境やエコに対する意識も様々だったのでこの活動自体がメンバー内の意識向上にもつながりました。このように、すべてを自分たちで企画運営するという事で、メンバーはそれぞれ様々なことを感じ、学び、力を身につけることが出来ました。この力は今後の学生生活、将来につなげていくことの出来る力だと思います。

このように充実した活動をすることが出来たのも、夢チャレンジプロジェクトによる金銭的援助や学生生活支援グループのみなさまによるバックアップ、その他様々な方々に支えていただいたおかげだと思っています。本当にありがとうございます。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

今回は活動初年度ということもあり、計画通りに実施できなかった点がありました。当初計画していた生分解トレーはその埋める場所や購入費用が高いこのトレーをどのようにして使ってもらえるかなどの問題点が浮上しました。購入費用の一部を負担するにしても1枚20円なので、相当の費用がかかってしまいます。他大学ではすでにこの生分解トレーの利用を行っているところもあるので、その大学の方法なども参考にしながら実施できるように試行錯誤していきたいと思います。

ごみ分別についても大学祭実行委員の方で今回の学園祭の計画がある程度固まってから私たちが動き出したという形になってしまったので、うまく実施することができませんでした。ごみ分別についても賛否両論があります。分別することでリサイクルや運送のために余分なエネルギーを使ってしまい、結果的には逆効果になってしまうという反対意見や、限りある資源を有効に使っていく必要があるという賛成意見です。この両方の意見をきちんと吟味しながら今後の実施についても考えていきたいと思います。今回は出店したブースの中でごみ分別クイズを行い、楽しみながら環境について考えてもらえるような機会を作りました。



7. 実施メンバー

代表者	井上 知佳 (教育学部 2年)	
構成員	三宅 麻央 (経済学部 1年)	
	川柳佐和子 (法学部 3年)	魚森 俊司 (教育学部 4年)
	平尾 徹也 (教育学部 2年)	鈴木 裕子 (教育学部 4年)
	西村 一樹 (教育学部 2年)	黒田 絢子 (医学部 3年)
	原田 知恵 (経済学部 2年)	武田 望美 (教育学部 3年)
	秋山 武士 (教育学部 2年)	倉田 裕子 (教育学部 2年)
	磯邊明日香 (教育学部 2年)	岡本 真典 (教育学部 2年)
	山下 拓朗 (農学部 2年)	大西 俊輝 (教育学部 2年)
	小笠 寛幸 (経済学部 1年)	笠井 智美 (教育学部 2年)
	鶴岡 美里 (経済学部 1年)	久保 孝彰 (教育学部 2年)
	塩見 真悠 (教育学部 1年)	渡辺 聖 (農学部 2年)
	田島 佐紀 (教育学部 1年)	辻木 舞子 (教育学部 2年)
	岩本瑠璃子 (農学部 1年)	構口 龍司 (法学部 1年)
	志食 陽平 (教育学部 1年)	有村 龍也 (法学部 1年)
	相馬 利輝 (法学部 1年)	河田 早織 (教育学部 1年)
	山崎 陽子 (経済学部 1年)	
	黒河かおり (経済学部 1年)	
	佐々木真美 (経済学部 1年)	
	小山 清志 (経済学部 1年)	
	安井 嘉規 (経済学部 1年)	
	三谷 勇雄 (経済学部 1年)	